

新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり

中学校特別活動

1 改訂の趣旨

- よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視
- 各内容のねらいと意義を明確にするため、新たに内容ごとに目標を明示
- 発達や学年の段階や課題に即した内容の提示
- 体験活動や話し合い活動、異年齢の子どもたちからなる集団による活動を重視

2 改訂の要点

(1) 目標

ア 特別活動の目標 ※下線は、後に示す「各活動・学校行事」の目標に反映されている箇所を示す。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や**人間関係**を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

イ 目標の改善

新たに「人間関係」が加えられた。

ウ 目標改善の背景

自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況を踏まえ、特別活動が、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることを明確にするため、[人間関係]が加えられた。

(2) 各活動・学校行事の目標及び内容（具体は、次ページ参照）

ア 学級活動

新たに目標を示すとともに、三つの内容から整理し、内容項目を改善した。

イ 生徒会活動

新たに、目標とともに、五つの内容を示した。「異年齢集団による交流」が加えられた。

ウ 学校行事

新たに目標を示すとともに、これまでの「学芸的行事」を「文化的行事」と改めた。

(3) 特別活動と他教科・領域との関連

ア 道徳の時間との関連

(ア) 特別活動の目標には、道徳教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、道徳教育との結び付きは極めて深い。特に、特別活動の望ましい集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的実践の指導をする重要な機会と場である。

(イ) 生徒が特別活動の様々な活動において体験した道徳的行為や道徳上の事柄を、道徳の時間で取り上げ、道徳的価値として自覚させたり、道徳の時間での指導が特別活動における具体的な活動場面の中で生かされるなど、道徳の時間と特別活動のそれぞれの特質を生かして関連付けることが必要である。（道徳的実践力と道徳的実践との有機的な関連）

イ 総合的な学習の時間との関連

(ア) 両者の大きな違いは、目標を達成する手段において見られる。特別活動は、「望ましい集団活動を通して」であるのに対して、総合的な学習の時間は、「横断的、総合的な学習や探究的な学習を通して」と示されている。

(イ) 図1のように、旅行・集団宿泊的行事である「自然教室」の中に、環境学習（総合的な学習の時間）の探究学習も設定できる。

(ウ) 新たに、総合的な学習の時間の学習活動が、特別活動の目標や内容と同等の効果が得られる場合、総合的な学習の時間の実施によって、特別活動の学校行事の実施に替えることができることとする規定が設けられている。

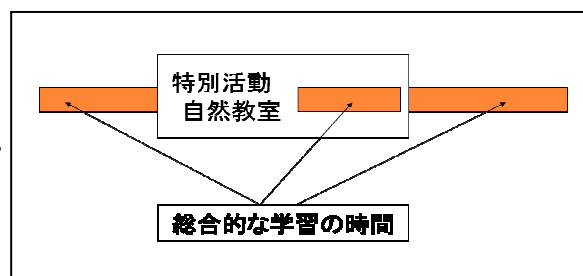


図1 集団宿泊的行事への環境学習の設定例

〔資料〕 目標及び内容の改善とポイント解説

	目標及び内容の改善 (下線は、全体目標との共通箇所)	ポイント解説
学級活動	<p>【目標】 学級活動を通して、<u>望ましい人間関係を形成し</u>、<u>集団の一員として学級や学校における生活づくり</u>し、<u>諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や生活</u>を育てる。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上</p> <p>(2) 適応と成長及び健康安全 ア 思春期の不安や悩みとその解決 イ 自己及び他者の個性の理解と尊重 ウ 社会の一員としての自覚と責任 エ 男女相互の理解と協力 オ 望ましい人間関係の確立 カ ボランティア活動の意義の理解と参加 キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 ク 性的な発達への適応 ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成</p> <p>(3) 学業と進路 ア 学ぶことと働くことの意義の理解 イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 ウ 進路適正の吟味と進路情報の活用 エ 望ましい勤労観・職業観の形成 オ 主体的な進路の選択と将来設計</p>	<p>生徒一人一人が自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重しよさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係をいう。</p> <p>全体目標の「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」を受けて、特に社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する観点から入れた。</p> <p>(1)ア 入学や進級、学級編成替え、転入・転出時など際に生じる人間関係などの諸問題、生徒会の委員会や学校における様々な集団への所属とその後の適応に関する問題など、学級や学校での集団生活にかかわる生徒個々の問題の解決のための活動であり、その解決のために、教師が積極的にかかわって指導・援助していくことが大切である。</p> <p>(2)指導の効果を高めるために、積極的に養護教諭、学校栄養職員などの専門性を生かした指導が行えるように配慮するとともに、家庭や地域との連携・協力を図ったり、個に応じた指導を工夫したりする必要がある。</p> <p>(3)ア 充実した人生と学習、学ぶことや働くことの楽しさと価値、学ぶことと職業などについて題材を設定し、保護者や卒業生など自分の身のまわりの人、地域の職業人などの体験談などを取り入れながら、自分の考えをまとめ、発表したり、話し合ったり、ディベートを行ったりする活動などが考えられる。</p>
生徒会活動	<p>【目標】 生徒会活動を通して、<u>望ましい人間関係を形成し</u>、<u>集団や社会の一員として</u> <u>学校生活づくり</u>し、<u>協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる</u>。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 生徒会の計画や運営 (2) 異年齢集団による交流 (3) 生徒の諸活動についての連絡調整 (4) 学校行事への協力 (5) ボランティア活動などの社会参加</p>	<p>(1) 学校生活の充実や改善向上を図るための活動として ア 学校生活における規律とよき校風の確立のための活動 イ 環境の保全や美化のための活動 ウ 生徒の教養や情操の向上のための活動 エ 好ましい人間関係を深めるための活動 オ 身近な問題の解決を図るための活動 などがあ</p> <p>生徒の主体的な活動を大切にしながら、学校と家庭や地域との連携・協力を積極的に進め、問題の解決に全力で当たる。</p> <p>(2) 活動内容(5)とも関連させて幼稚園や保育所に通う幼児、地域の高齢者との交流など、学校外まで広げていくことも大切である。</p>
学校行事	<p>【目標】 学校行事を通して、<u>望ましい人間関係を形成し</u>、<u>集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い</u>、<u>協力して</u> <u>学校生活を</u>とす<u>る自主的、実践的な態度を育てる</u>。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事</p>	<p>学校行事は、学校が計画し実施するものであるとともに、各種類の行事に生徒が積極的に参加し協力することによって充実する教育活動であり、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるように教師の適切な指導・支援が必要である。</p> <p>(2) 文化的行事</p> <p>平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり文化や芸術に親しんだりするような活動を行う。</p> <p>本物の文化や芸術に触れたり鑑賞したりする活動、文化の継承に寄与する活動などを充実する観点から、「学芸的行事」を「文化的行事」に改めた。</p>

3 新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり

- (1) 全教師が指導に当たるため、全教師の共通理解と協力体制の下、全体計画を作成・実施
- (2) 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用など学校の創意工夫
- (3) 計画、活動、活動後のそれぞれの段階の評価を通じて効果的な指導の工夫と改善

4 指導の先行実施

- ・平成21年度から新しい学習指導要領の規定により先行実施する。